

国語 第5学年 たがいの立場を明確にして、話し合おう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語』（令和6年度版）第5学年の話すこと・聞くことの単元で、コラム「意見が対立したときには」とあわせて扱う。同社の年間指導計画例では10月に置かれている。東京書籍『新編 新しい国語』（令和6年度版）では、第5学年9月の「問題を解決するために話し合おう」が同じA(1)オを扱う。話し合いの例の話題とコラムの中身は、使う教科書で確かめる。

この単元で子どもが最後にできるようになること

この単元を終えた子どもは、学校生活の課題について、自分の案と理由、根拠になる材料を示して立場をはっきりさせ、相手の案が何を大事にしているかを質問で確かめてから比べられる。意見が対立した時も、目的に立ち返って、一つを選ぶ・合わせる・条件を付ける・順番を付けるなどのまとめ方から選び、グループの考えをまとめられる。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(2)イ	イ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。
〔第5学年及び第6学年〕A話すこと・聞くこと(1)ア	ア 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。
〔第5学年及び第6学年〕A話すこと・聞くこと(1)オ	オ 互いの立場や意図を明確にしながらか计划的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。
〔第5学年及び第6学年〕A話すこと・聞くこと(1)イ	イ 話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。
〔第5学年及び第6学年〕A話すこと・聞くこと(2)ウ	ウ それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。
〔第5学年及び第6学年〕の目標(2)	(2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようになる。
〔第5学年及び第6学年〕の目標(3)	(3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(1)	(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(4)	(4) 第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」に関する指導については、意図的、计划的に指導する機会が得られるように、第1学年及び第2学年では年間35単位時間程度、第3学年及び第4学年では年間30単位時間程度、第5学年及び第6学年では年間25単位時間程度を配当すること。その際、音声言語のための教材を活用するなどして指導の効果を高めるよう工夫すること。

学習指導要領の項目	原文
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(9)	(9) 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(2)	(2) 第2 の内容の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 3(1)	(1) 教材は、第2 の各学年の目標及び内容に示す資質・能力を偏りなく養うことや読書に親しむ態度の育成を通して読書習慣を形成することをねらいとし、児童の発達段階に即して適切な話題や題材を精選して調和的に取り上げること。また、第2 の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」及び「C 読むこと」のそれぞれの(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 3(2)ウ	ウ 公正かつ適切に判断する能力や態度を育てるのに役立つこと。

単元の目標

情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う（(2)イ）。目的や意図に応じて話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして伝え合う内容を検討し、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる（A(1)ア・オ）。言葉がもつよさを認識するとともに、思いや考えを伝え合おうとする（学年の目標(3)）。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。（(2)イ）	①「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。（A(1)ア） ②「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。（A(1)オ）	①粘り強く、互いの立場や意図を明確にし、学習の見通しをもって、よりよい学校生活のために計画的に話し合おうとしている。

単元の流れ

全6時間。光村図書出版『国語』（令和6年度版）の年間指導計画例（第5学年）で、この単元は10月、話すこと・聞くこと6時間。学習指導要領 第3 の1 (4)は、第5学年及び第6学年の話すこと・聞くことに年間25単位時間程度を配当するとしている。国語の標準授業時数は第5学年で年間175単位時間（学校教育法施行規則 別表第一）。配当は自校の年間指導計画に合わせる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○学校生活の中で、よりよくしたいこと（話題）を出し合い、グループごとに話し合う話題と目的を決める。 ○学習の見通しをもつ。	態①（観察）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	2	○自分の案（立場）を決め、案の理由と、根拠になる材料（アンケート・観察・聞き取り など）を集める。	思①（提案カード・メモ）
	3	○集めた材料を図に整理し、分類したり関係付けたりして、自分の案と理由を見直す。	知①（図・提案カード） 思①（提案カード）
	4	○話し合いの計画（目的の確認→案と理由→質問→比べる→まとめる→決まったことの確認）を立てる。 ○コラム「意見が対立したときには」を読み、立場が分かれた時の話し合いの進め方を確かめる。	
	5 （本時）	○グループで話し合う。互いの立場と意図を確かめながら考えを広げ、目的に照らしてまとめる。	思②（観察・話し合いメモ）
第3次	6	○グループで決まった考えを学級で報告し合う。 ○話し合いの進め方を振り返り、立場や意図を明確にするために役立った言い方をまとめる。	思②（報告） 態①（振り返り）



本時の案

本時の目標：よりよい学校生活のための話し合いで、互いの立場や意図を明確にしながら計画に沿って話し合い、考えを広げたりまとめたりできる。(A(1)オ)

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	1 話し合いの目的と計画を確かめる。 ○「今日の話し合いで、何を決めますか。どの順で話し合いますか」 【めあて】立場と意図をはっきりさせて話し合い、よりよい学校生活のための考えをまとめよう。 2 前時に確かめた、立場が分かれた時の進め方を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・～を減らすための取り組みを決める。 ・案と理由を出す、質問する、比べる、まとめる、の順に話し合う。 ・意見が分かれたら、目的に戻って考える。	・グループの計画表を机の上に置かせ、今どこを話しているかに印を付けさせる。 ・立場が分かれた時の進め方は、前時に学級で確かめた言葉を黒板に掲示しておく。コラムの言葉は先生が教科書から書き入れる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
展開 (分)	3 グループで話し合う。 (1) 一人ずつ、自分の案と理由、根拠になる材料を言う。 ○「あなたの案は、何を大事にした案ですか」 (2) 互いの案の意図を確かめる質問をする。 ○「その案にしたのは、どんなことを大事にしたいからですか」 (3) 案を比べ、考えを広げる。 ○「それぞれの案の意図に、共通する所はありますか。対立している所はどこですか」 (4) 目的に照らして、考えをまとめる。 ○「目的に合うように考えをまとめるには、どの方法がよいですか（一つを選ぶ・合わせる・条件を付ける・順番を付ける など）」 4 まとめ方の違うグループの話し合いを、全体で聞き比べる。 ○「このグループは、対立した意見をどうやってまとめましたか」 〈予想される児童の反応〉 ・わたしの案は～で、理由は～だからです。アンケートでは～という結果でした。 ・～さんの案は、安全を大事にしているのですね。 ・どちらの案も、みんなが気持ちよく過ごせることを目指している所は同じだ。 ・～さんは楽しさを、～さんは安全を大事にしている所が対立している。 ・二つの案を合わせて、～にしたらどうか。 ・～という条件を付ければ、～さんの案でもよい。 ・意図を確かめたら、対立していないことに気付いた。 ・目的に戻ったら、まとめ方が決まった。	・案を言う時は、提案カードの「案」「理由」「根拠の材料」の順で言わせる。 ・反対だけを言う子には、「相手の案は何を大事にしているか」を先に言い直させる。 ・立場の違いを人の違いにしないよう、意見と人を分けて話すことを確かめる。 ・話し合いが計画からそれたら、計画表の印を見て戻るよう促す。 ・発言しにくい子には、提案カードを読み上げてから話してよいことにする。 ・先生はグループを回り、意図を確かめる質問と、まとめ方を選ぶ発言を記録する。 ・まとまらないグループは、決まったことと決まっていないことを分けて報告させる。結論が一つにならなくても、考えが広がったことを価値付ける。 ◎思② 互いの立場や意図を確かめながら計画に沿って話し合い、目的に照らして考えを広げたりまとめたりしている。 (観察・話し合いメモ)
まとめ (分)	5 本時の学習を振り返る。 ○「立場や意図をはっきりさせるために役立った言い方は、どれですか」 【まとめ】互いの案の意図を確かめてから比べると、対立した意見も、まとめ方を選んでまとめられる。 6 次時は、決まった考えを学級で報告することを知る。 〈予想される児童の反応〉 ・「何を大事にした案ですか」と聞いたら、対立していないと気付いた。 ・条件を付けるまとめ方が使えた。	・振り返りは「役立った言い方」「次の話し合いで使いたいまとめ方」の二つで書かせる。 ・話し合いメモと計画表を回収し、評価に使う。

板書の構造（縦書き・右から左へ）

上段左に日付・単元名・めあて。上段右に話し合いの計画（目的の確認→案と理由→質問→比べる→まとめる→決まったことの確認）。中段左に、立場をはっきりさせる言い方（「わたしの案は～、理由は～」 「～を大事にした案ですか」）。中段右に、立場が分かれた時のまとめ方（一つを選ぶ・合わせる・条件を付ける・順番を付ける）。下段に、全体で聞き比べたグループの話し合いを、案と意図を図にして並べ、共通点を線で結び、対立点に印を付ける。右端にまとめと振り返りの観点。

つまずきやすい所と手当て

つまずきやすい所は五つ。一つ目、立場と理由がはっきりせず、感想と意見が混ざる。手当ては、提案カードに「案」「理由」「根拠の材料」を分けて書かせること（A(1)イの「事実と感想、意見とを区別する」と結び付く）。二つ目、材料を集めても話し合いで使えない。手当ては、集めた材料を図に整理し、どの理由の根拠になるかを線で結ばせること（(2)イ、A(1)アの「分類したり関係付けたり」）。三つ目、相手の案を否定するだけになり、対立したまま終わる。手当ては、反対の前に「何を大事にした案か」を質問で確かめる順を計画に入れること（A(1)オの「互いの立場や意図を明確にしながら」）。四つ目、計画を立てても途中で話がそれる。手当ては、計画表を机の上に置き、終わった段に印を付けながら進めること（A(1)オの「計画的に」）。五つ目、意見の対立が人と人との対立になる。手当ては、話題を選ぶ段階で特定の子や学級を責める話題を避け、意見と人を分けて話す約束を毎時確かめること。

プリントの案

提案カード

「話題と目的」「わたしの案」「理由」「根拠の材料（アンケート・観察・聞き取りの結果）」「この案で大事にしたいこと（意図）」の五つの枠。話し合いの後に書く「質問されたこと」「考えが変わった所」の欄。A(1)ア・オに合わせた。

材料を整理する図のシート

中央に自分の案、その周りに理由、さらに外側に根拠の材料を書き、どの材料がどの理由を支えるかを線で結ぶ図。下に、使わない材料を置いておく欄。(2)イの「図などによる語句と語句との関係の表し方」に合わせた。

話し合いの計画表

上から「目的の確認」「案と理由」「質問（意図を確かめる）」「比べる」「まとめる」「決まったことの確認」の六つの段と、終わった段に印を付ける欄。右に、まとめ方の候補（一つを選ぶ・合わせる・条件を付ける・順番を付ける）を並べる。A(1)オの「計画的に」に合わせた。

話し合いメモと振り返りカード

話し合いメモは、グループの一人一人の案と意図を書く表と、「共通する所」「対立している所」の欄。振り返りカードは「役立った言い方」「次の話し合いで使いたいまとめ方」の二つの欄。

出典：小学校学習指導要領（平成29年告示）（文部科学省）（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語』（2020年）。評価標準の文末と3観点の形（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）／同 参考資料の一覧ページ（国立教育政策研究所）（<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html>）／学校教育法施行規則 別表第一（国語の標準授業時数 第5学年175）。e-Gov法令検索（<https://laws.e-gov.go.jp/law/322M40000080011>）／光村図書出版『国語』（令和6年度版）年間指導計画例（第5学年）。单元名・教材名・時期（10月）・配当時数（話すこと・聞くこと6時間）・指導目標の出典（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/d8b2753f-1cbb-415c-a570-2a2cfa70fbe3/368）／光村図書出版 小学校国語 年間指導計画の一覧ページ（<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/s-kokugo/keikaku>）／東京書籍『新編 新しい国語』（令和6年度版）第5学年 单元一覧。「問題を解決するために話し合おう」（9月・6時間・A(1)オ）の出典（https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/data/kokugo_tangen_5_202401.docx）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

